

徳島で全国に誇れるものといえば、「阿波踊り」や「人形浄瑠璃と農村舞台」、「四国霊場」、「鳴門の渦潮」に「LED」などいろいろありますが、「剣山スーパー林道」もその一つといえるでしょう。

剣山スーパー林道（つるぎさんスーパーりんどう・正式には特定森林地域開発林道剣山線）は、徳島県勝浦郡上勝町から那賀郡那賀町に至る87.7kmの日本最長の林道です。1985年に全線開通しました。西日本第二の霊峰剣山を擁する剣山国定公園を抜け、紅葉の美しさで西日本一といわれる高の瀬峡など魅力ある大自然にあふれています。無舗装の長いダートコースを目当てに全国からオフロードバイクや4WDが集まります。ファミリーセダンやマイクロバスでも走行は可能です。

秋の連休の一日にちょっと足を延ばしてみました。

まずは、剣山スーパー林道の起点とされる上勝町へ行きます。道の駅「ひなの里かつうら」を通り、月ヶ谷温泉を過ぎて少し行くと、右側に橋を渡ります。橋を渡り左へ行くとやがて起点標識のポールが見えます。ここから旭丸峠まではほとんど舗装されています。伝説のような地名の標識が何箇所もありましたが、その意味が分からず残念。この日は今年の豪雨の影響でこの先通行止めがあるということで引き返しました。とはいえ、スーパー林道のさわりだけでも体験していただくことは良いかと思えます。秋は紅葉のシーズンが最高ですが、初夏の若葉の頃も見頃です。

一人で行くには崖も多く、ガードレールのない所もあるので注意が必要です。風景も楽しめますので、できれば二人以上で行ってください。また、土砂崩れや雪などで通行止めの期間もあります。季節を選んで行くことをおすすめします。

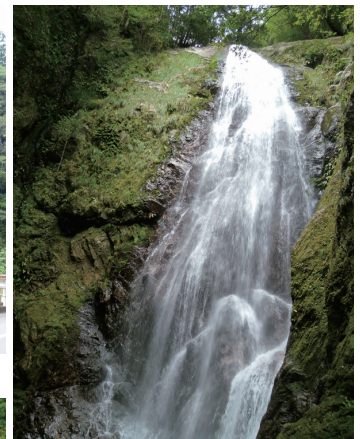
入るルートは神山町の岳人の森や四季美谷温泉の方からもあります。

月ヶ谷温泉で昼食をとり、帰りは南へ舵を取りました。きれいに間伐された杉林の道を行き轟の滝（同名が他にもあったような）を見物し、美杉峠を經由し那賀町の乗馬クラブコルツへ。余裕があれば乗ってみたいところですが

（体験乗馬は1,000円、乗馬教室は3,000円から）。その途中で見つけた阿波古事記研究会が設置した掲示板が、「千引（ちびき）の岩」を解説しています。面白いのでぜひ読んでみてください。



▲ 剣山スーパー林道起点、県外から来たバイク



▲▼ 百間滝  
滝まで180mの表示。急な勾配ですが、階段もあり、安全に登って行けます。水量にもよりますが、落差は一見の価値あり



▲ 丸岩 ひときわ大きな丸い岩です





▲ 旭丸峠の一番上にある巨大な岩

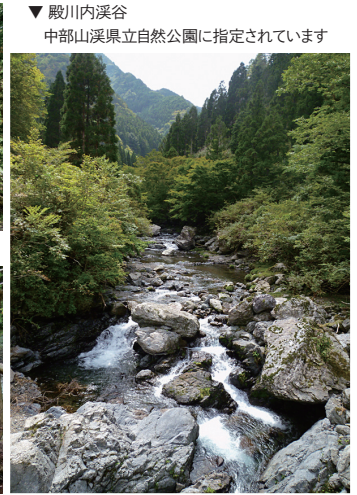


▲ 林道カシヤ谷線起点



▲ 綾姫権現

対岸への橋は鉄製ですが、路面は網の目状で、足元は祖谷のかずら橋のように川面が見え、普段はないスリルを味わうことができます



▼ 殿川内溪谷  
中部山溪国立自然公園に指定されています



▲ この谷川にはしっかりと多くの魚道が設置されています。自然体系を壊さない工夫の一つです



## 千引の岩

この大治は、『古事記』や『日本書紀』に書かれた「千引の岩・千人所引の巻石」に推定される。

日本書紀の歴史書「古事記」によくと、因流りの途中で亡くなった妻、伊弉諾美命を連れて黄泉の国の比羅山へ会いに行つた伊弉諾命は、「見てはいけない」と言われた妻の顔を見て、見ため飯糰に混むるはめとなった。逃げる途中で投げつけた、妻を束ねた葉や帯が山麓、竹の葉に変わる。それを運つ手が食べると、神に逃げたが、なおも追つてくるので坂本にアツた襦の葉を投げつけると追つ手は逃げ帰つてしまった。最後に伊弉諾美命が混いかけたので、伊弉諾命は、千人が引くような大岩を運ぶ。黄泉の国から逃げ帰つた伊弉諾命が、比羅山の向の縁の小門の阿波岐原で、涙まみりすと天照大神と須佐能乎命が生まれた。と古事記に書いてある。

『古事記』の物語は、徳島県内の地名に出ている所が多く、上記の物語は、徳島県の山川町から阿南市児島林町までの地域を舞台として繰り広げられた物語と考えられる。

平安時代に書かれた『延喜式神名帳』(九二二年)には、全国一社のみ、伊弉諾美神社が記録されている。徳島県美馬市以外にはない。

黄泉の物語は、この阿波社、伊弉諾美神社がある穴吹町中島から始まり、高麗山を越えて「カマツを投げたら妻が生まれた」と書かれる上野町には、楯中面、生束の地名があり、旧相生町竹谷谷の旧八面神社には、「擗から竹の子が生えた」と書かれる竹を型取った巻石がある。

「襦を投げた」と書かれる丹生谷地域には、百合・襦の木板・襦付等の地名があり、神社には襦を型取つた木彫りや瓦がある。また、旧相生町には、昔からヨミ板と呼ばれる塚もある。

黄泉の救を逃げ帰つた伊弉諾命が、四国最東端の阿南市児島林町(打堀川)で、涙まみりをする。天照大神と須佐能乎命が生まれた。以上のことから、この大治は『古事記』等に書かれる「千引の岩」にあてはまる。

阿波古事記研究会